

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2874700285		
法人名	社会福祉法人 みかたこぶしの里		
事業所名	グループホーム むらおかの空		
所在地	兵庫県美方郡香美町村岡区川合13番地1 (電話) 0796-99-5363		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 7月31日	評価確定日	19年 8月31日

【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	11 人	常勤	10人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	RC・一部鉄骨 造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	23,400 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名	
要介護1	2	要介護2	6			
要介護3	3	要介護4	3			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	85 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村瀬医院、香美町国民健康保険大谷診療所
---------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念の具現化に向けて、管理者と職員が意識共有されており、一人ひとりの尊厳の大切さが日常のケアに活かされている。大自然の環境の中で、散歩、山菜取り、湧き水汲み、紅葉見物、ドライブ等、利用者のそれぞれの希望に沿い、季節を味わう機会を多くもつ外出活動の取り組みがなされている。また、地域交流や運営推進会議の開催にも熱意があり、更なる質向上への期待がもてる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	評価結果を確認し、改善計画シートを作成している。項目毎に話し合いながら改善状況を記録し、職員全員で改善に取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価の意義や目的を理解し、ユニットごとで職員全員が積極的に話し合い、自己評価に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	市職員、地域包括支援センター職員、地域代表、家族の代表数名、事業所の管理者、職員等が参加し、外部評価結果についての報告や事業報告、利用者の現状報告等、サービス向上の為に積極的な意見交換や検討がなされている。定期的な開催にも期待が持てる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族の訪問時、気兼ねなく意見や要望を伝えやすい関係作りに努めており、運営やサービスに反映させるように取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地区の盆踊りや夏祭り、地域の防災活動等に積極的に参加したり、近隣の保育園へ訪問に出かける等、また、老人会などの事業所への定期訪問の受け入れ等があり、地元の人々と交流する機会を広げ馴染みの関係が深まっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を深め、『個人の尊厳が保たれる自分らしい暮らし』を事業所独自の理念として掲げ、地域生活を支える支援に取り組みられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の職員ミーティングの話し合いの中で、理念に照らし合わせて色々な問題点の解決や具体的なケアに向けて取り組まれている。		職員全員が理念を共有できるように、研修会や勉強会等を行い、継続した取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	数地区からの盆踊り大会や夏まつりに参加したり、保育園の運動会や町のマラソン大会の応援等の地区行事の参加はされている。自治会の会合や地域の美化活動等への参加は行なっていない。		定期的な地区の老人会の訪問や地域の方々の訪問を通じて、入居者と共に地域の一員として地域活動参加を拡げてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の第三者評価結果をもとに、改善計画シートを作成し、職員ミーティングで話し合い、改善項目については改善に向けて、実践に繋げるよう取り組まれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	18年度の運営推進会議には、市担当者、地域包括職員、区長、家族、管理者、職員等出席し、入居者の状況や日頃の活動報告等を説明され、色々な立場からの意見をサービス向上に活かすように取り組まれている。		充実した会議の内容やサービス評価への取り組み等について話し合い、年間の計画を立て、継続した会議開催に向けて検討してほしい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議によって市町担当員との交流がおこなわれているが、市町と他の交流や行き来は少ない。		市町村合併により、市町への行き来がしづらくなった現状もあるが、運営推進会議以外にも積極的な連携に取り組まれることが、期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に一度は一人ひとりの生活の様子や受診の結果等を知らしている。変化のあった時には随時報告したり、ホームに来てもらったりしている。金銭管理支出明細書を3ヶ月に一度送付し、確認表を受け取っている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	法人の第三者委員会を設置したり、苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、家族に説明している。入居者、家族が要望や苦情等を言える環境作りに取り組まれている。		サービスの質向上の為に、アンケートを取ったり、ミーティングで話し合い、全職員が対応方法を理解できるように、課題検討し解決に向けた積極的な姿勢が望まれる。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	勤務シフトの上で、2つのユニットへの勤務日程が組み込まれており、異動や退職による利用者へのダメージは少なく、変わる時には、引き継ぐ期間を長く設定されており、不安を与えないように支援されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業計画の中で年間の研修計画が立てられ、職員が段階に応じて育成できるように取り組まれている。また、外部の研修を受けるよう配慮されている。</p>		<p>いろいろな研修や勉強会の情報を職員全員に提供する等、ホーム内外の学習会以外でも職員のスキルアップとして自ら学ぶ環境作りに取り組んでほしい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とは、電話での意見交換は行なっているが、ネットワーク作りや定期的に相互訪問する活動等の取り組みまでは至っていない。</p>		<p>相互訪問による交流の機会をもち、職員の意識活性化をはかり、サービスの質向上にむけての取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の安心と納得を第一義に考えた支援に努められている。サービス利用に際しては、家族と共に見学もしていただき、本人についての固有の情報、家族からの聴き取り、本人の様子等を的確に捉えた上で、不安を軽減することに努められている。また、環境変化に伴うダメージを防ぐために、他の利用者や環境に慣れるまで不安のないよう、職員が時間をかけて意識的に寄り添う支援が行われている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から畑仕事全般を教えてもらったり、山菜の調理の仕方や作法についてなど学ぶところが多く、お互いが協働しながら支えあい、和やかな関係を築く取り組みがされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活の中で、一人ひとりの希望や思いを引き出せるように、言葉かけやじっくり聞く姿勢などについて話し合い、役割が負担になっているのではないかと、感謝の言葉が少ないのではないかと等、常に利用者の立場にたった支援がなされている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時の面接の時に本人や家族の思い、ケアの有り方、要望や課題について話し合い、一人ひとりに沿った介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎の定期的見直しを行っており、状態の変化が生じた利用者については、随時話し合いを持ち見直しが行われ、新しい計画を作成している。</p>		<p>介護日誌にその人の状態の変化や課題の提案を記録に残されているが、介護計画に沿ったケアの重要性を話し合ったり、職員が計画についての意見を述べる定期的な会議の開催が望まれる。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算や短期利用共同生活介護の指定を受けている。重度化された場合や終末期のケアについては、今後の課題として積極的に捉えている。現状としては、重度化された中でも、生活継続の可能性が広がるよう努力されている。</p>		<p>今後は、重度化された場合や終末期のケアに対応する体制の整備に向けて更に努力されることを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者や家族が馴染みのかかりつけ医を希望される場合は、継続した医療が受けられるように支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期のあり方について職員で話し合い、事業所においてできる支援の可能性を広げる取り組みを始めている。本年度より急性期、重度化対応に関する指針を書面にまとめ家族に説明し、署名、捺印をもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報保護に関する基本方針について平成18年に研修し、ファイルにまとめ職員全員に見てもらうように指導している。利用者の写真掲載においては、了解を必ず取っている。		職員全員に周知する為に継続した研修やミーティング等での勉強会が望まれる。
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	必要最低限の1日の日課は予定しているが、その日の利用者の状態や希望や要望に沿って支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の食べたいメニューを聞きながら立てている。地域の人から頂いたり、利用者が畑から収穫した季節の野菜等でその日のメニューの変更をすることも多い。また、買い物や準備、片付けなど職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後3時30分からと決まっているが、回数や時間帯は利用者の希望に合わせている。毎日入浴する人もあり、川の傍のロケーションを活かした露天風呂風のお風呂を楽しまれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしを共にする中で、食事の準備、畑仕事、書道、生け花、調理等、一人ひとりの役割や楽しみを引き出し、得意分野から力を発揮できるようにお願いし、意欲や満足が得られるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は毎日出かけている。ドライブや湧き水汲み、外食などにも出かけている。利用者のその日の希望により出かける支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯には玄関やエレベーターの施錠をしているが、日中は開放し外へ出かけようとする利用者には、職員がついて共に行動するように対応がなされている。見守りの方法や一人ひとりの状態を察知する気配り等、ミーティングやサービス現場において指導されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の協力を得ながら防災訓練を事業所で行ったり、地域の防災訓練にも利用者、職員が参加している。定期的な設備点検と地域住民としての訓練が行われている。		火災以外の災害を想定した避難訓練や避難経路や避難場所の確認などを行ったり、運営推進委員会などで地域の協力体制について話し合うなど、地域に応じた具体的な支援体制の整備の取り組みに期待がもてる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に、一人ひとりの三食の食事摂取量や水分摂取量が書き込まれ、職員全員が一人ひとりの栄養バランスや水分量を状態に応じて確保できるように支援が行われている。		食事の際に記入し、一人ひとりの摂取量がわかり易く取りまとめた書式の工夫に取り組まれ、摂取状況や状況を職員が共有できるような支援に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、大きな窓や出窓など自然の環境を取り入れる工夫がなされ、明るく、温度調節や換気に配慮されている。落ち着いた畳のフリースペース、少人数で憩えるスペースなど、至る所に季節の花が活けられ、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは備え付けであるが、テレビやテーブル、家族の写真や趣味の飾りつけなど、個々の生活スタイルに応じた居室作りが支援されている。本人の持ち物が少ない方には、家族の協力を得られるように積極的に取り組まれている。		

 は、重点項目。